

冬至(12月22日)夜、日本と韓国で約20会場で「原爆の火」でキャンドルナイトを開催。

韓国の広島「(ハプチョン)」で「原爆の火」を受け取った日韓の有志が開催。

12月3日～5日に日本と韓国から約20人が在韓被爆者の方々の多く住む地域「(ハプチョン)」に集い、在韓被爆者の方々5名の話聞き、そこに灯された原爆の残り火「平和の火」が分けられました。韓国5会場、日本で17会場でキャンドルナイトが開催される予定です。キャンドルナイトへの取材のご検討よろしくお願ひ致します。



ハプチョンに住む在韓被爆者を訪ね話を聞く様子。



平和の火を受け取る様子。

在韓被爆について学んだ上で火を受け取る。

キャンドルナイトワンピース実行委員会主催の合宿にて被爆体験談、裁判の話、被爆2世の話、手帳をもらえない方の話等ハプチョンで在韓被爆について学んだ上で「平和の火」を10～30代を中心とする有志約20名が受け取り持ち帰りました。



電気を消してろうそくの明かりだけで過ごす「キャンドルナイト」

「電気を消してスローな夜をすごしましょう」という合言葉で毎年夏至と冬至に行われる環境を配慮した日本と韓国で行われている新しい習慣。日本では約800万人の方が参加している。今回の企画は、使用する火に「原爆の火」を提案し、在韓被爆や平和について考える機会を作りました。



韓国の広島「ハプチョン」

広島で被爆された朝鮮人の大半はハプチョン郡出身でした。ハプチョンには多くの在韓被爆者の方々がおられ、朝鮮半島唯一の被爆者施設(写真)もあります。日韓の両国の狭間で無関心の悲しみと孤独の中で歩まれた在韓被爆者の方々の人生に多くの方々に心を重ねていただくのが今回の企画の目的です。



星野村に燃え続ける「原爆の火」

広島で兵役についていた故・山本達雄氏が叔父の遺骨の代わりに原爆の火を故郷の星野村に持ち帰り灯し続ける。やがて星野村役場が管理を引き継ぎ「平和の火」と名付けられ大切に灯し続けられている。12月3日にキャンドルナイトワンピース実行委員会がハプチョンに届けました。

主催・問い合わせ先 キャンドルナイトワンピース実行委員会

10代～40代有志による任意団体。福岡県八女市星野村の平和の火を使ったキャンドルナイトを全国に呼びかける。2007年に3箇所から始まった活動は2010年は69箇所で開催される。2008年秋は日韓クルーズで平和の火を運び釜山でのキャンドルナイトを成功させる。

〒540-0029 大阪市中央区本町橋6-21MFK本町第一ビル903号 TEL: 06-6375-7816

E-mail: info@1pi-ce.jp HP: <http://www.1pi-ce.jp/> ブログ: <http://onepi-ce.seesaa.net/>